



追加型投信 / 国内 / 株式

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン 「運用状況と中小型株式市場を取り巻く投資環境について」

ファンド情報提供資料 / データ基準日: 2017年9月29日

平素は弊社ファンドをご愛顧いただきまして、厚く御礼申し上げます。

2017年7月以降の国内株式市場は、トランプ政権の運営リスクの再燃、欧米における金融政策の不透明感の高まり、および北朝鮮を巡る地政学リスクなどで円高懸念が高まる中、内需株の多い小型株が相対的に好感され上昇しました。このような状況下、日本において企業単位で見えますと、独自の技術や参入障壁などを有することで、景気変動の影響を抑えて成長を続けている企業も存在します。

そこで、このたび、経営者が明確な企業コンセプトを持ち、独自の技術や参入障壁などにより中長期にわたって利益成長が見込まれる銘柄を、ボトムアップ・アプローチにより選定することで、過去5年間では良好なパフォーマンスをあげているジャパニーズ・ドリーム・オープンの運用状況と、中小型株式市場を取り巻く投資環境についてご説明させていただくことといたしました。

### 当ファンドの基準価額と純資産総額の推移(過去5年間)



- ※ 基準価額と課税前分配金再投資換算基準価額は2012年9月28日=100として指数化
- ※ 基準価額および課税前分配金再投資換算基準価額は、信託報酬控除後の値です。
- ※ 信託報酬率については、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ※ 課税前分配金再投資換算基準価額は、課税前分配金を再投資したものと計算しています。

### 期間別騰落率(2017年9月29日現在)

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	2.9%	11.5%	28.6%	45.6%	106.2%	102.9%
参考指数	3.9%	10.6%	20.3%	41.5%	51.8%	27.6%

- (注)\* ファンドの期間別騰落率は、課税前分配金を再投資したものと計算しています。  
 \* ファンドの騰落率と実際の投資家利回りは異なります。  
 \* ファンドはJASDAQインデックスを参考指数としており、騰落率は参考までに記載しています。

※計測期間が異なる場合は結果も異なることにご注意ください。  
 ※上記は指数を使用しています。指数については【本資料で使用した指数について】をご覧ください。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

## 当ファンドの運用状況（2017年9月29日現在）

## 設定来の課税前分配金再投資換算基準価額の推移



※課税前分配金再投資換算基準価額は、信託報酬控除後のものです。

## ポートフォリオの状況（2017年9月29日現在）

## 業種別比率

	業種	純資産比率
1	サービス業	24.3%
2	小売業	10.3%
3	電気機器	9.1%
4	情報・通信業	7.8%
5	機械	7.4%
	その他業種	36.9%
	合計	95.8%

## 資産構成

内訳	純資産比率
現物株式	95.8%
株価指数先物等	-
その他資産	4.2%
合計(※)	100.0%

※先物の建玉がある場合は、合計欄を表示していません。

(注)純資産比率の合計値が表記の各要素の合計値と異なることがあります、四捨五入による影響です。

## 株式組入上位10銘柄

	銘柄コード	銘柄名	業種	純資産比率
1	9757	船井総研ホールディングス	サービス業	2.8%
2	2702	日本マクドナルドホールディングス	小売業	2.7%
3	4849	エン・ジャパン	サービス業	2.4%
4	6817	スミダコーポレーション	電気機器	2.3%
5	6534	D. A. コンソーシアムホールディングス	サービス業	2.1%
6	1959	九電工	建設業	2.1%
7	7575	日本ライフライン	卸売業	2.0%
8	1824	前田建設工業	建設業	2.0%
9	4587	ペプチドリーム	医薬品	2.0%
10	2146	UTグループ	サービス業	1.9%

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、当社が公表している基準価額とは異なります。

※資産構成のその他資産の比率は、有価証券を除く資産(コールローン、預金等)総額から負債(未払信託報酬等)総額を控除した金額をもとに算出しています。業種別比率の算出にあたっては上場予定銘柄は含まれておりません。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

ジャパニーズ・ドリーム・オープン

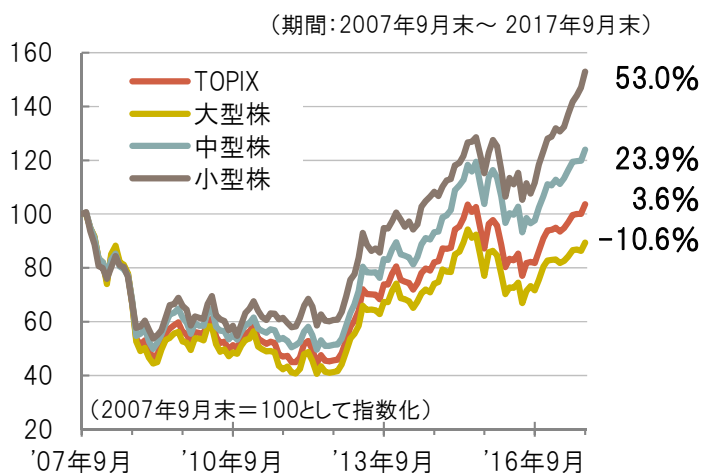
中小型株式を取り巻く投資環境

1

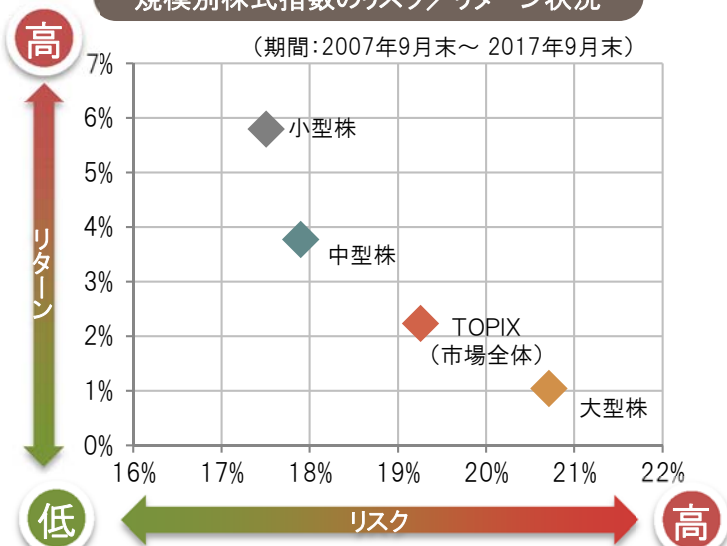
直近10年間の国内株式市場は、収益性・安定性とも中・小型株が相対的に魅力的

- リーマンショックを含む直近10年間では、中・小型株指数は相対的に良好なパフォーマンス
- 中型株、小型株とも大型株やTOPIX(市場全体)よりも相対的に低リスクで高いリターン

規模別株式指数推移



規模別株式指数のリスク/リターン状況



※左のグラフは各指数の過去10年間の変化率をその推移とともに表示しています。一方で右のグラフは各指数の月次騰落率に基づき年率換算したリターン等を表示しています。左のグラフの変化率と右のグラフのリターンのイメージがかい離していますが、これは当該期間の初期段階で各指数が大きく下落した影響によるものです。

※リターンは月次騰落率の平均を、リスクは同標準偏差を年率換算しています。

(出所)Bloombergのデータより三菱UFJ国際投信作成

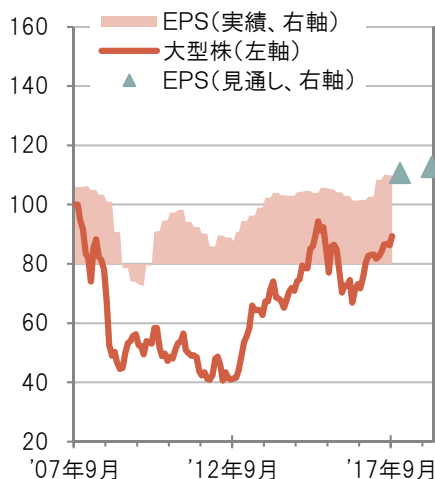
2

企業業績の動向を反映した直近10年の株価指数

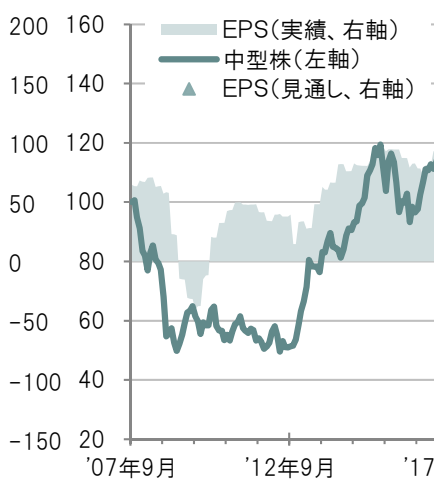
- EPS(一株当たり純資産)の動向は企業規模が小さいほど変化率が大きい傾向
- 小型株は2018年に向けて高いEPSの成長が見込まれており株価にも期待が持てる

(期間:2007年9月末~2017年9月末、株価指数は2007年9月末=100として指数化)

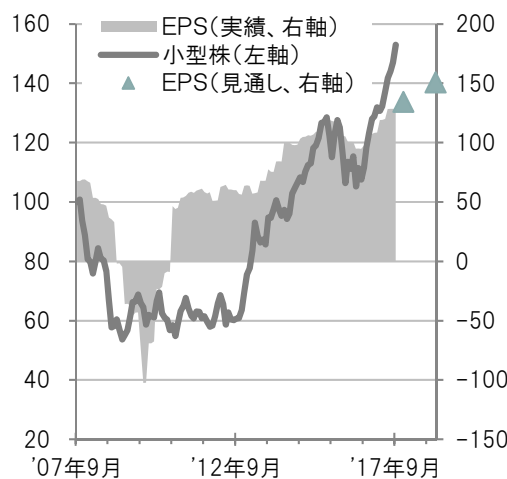
大型株(TOPIX100)



中型株(TOPIX Mid400)



小型株(TOPIX Small)



(▲=2017年12月末、2018年12月末時点のBloombergの予想値)

(出所)Bloombergのデータより三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 計測期間が異なれば結果も異なる事にご注意ください。■ 上記は指数を使用しています。指数については、【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

## 中小型株式を取り巻く投資環境(続き)

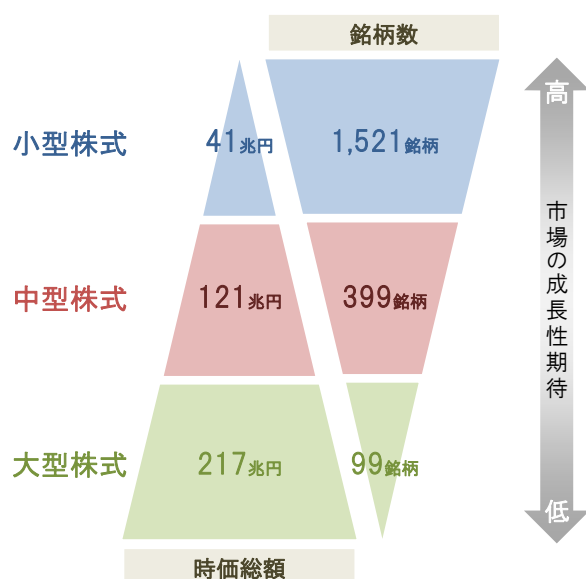
3

## 中小型株式の本質的な魅力の発掘はボトムアップリサーチの手法如何

- 大型株は約100銘柄を多数のアナリストが調査しており、情報の格差が少ない傾向
- 一方、中型株は約400、小型株は1,500を超える銘柄を相対的に少数のアナリストでカバー
- ボトムアップリサーチの手法如何では、先行して投資収益を獲得できる可能性

## 東証一部上場銘柄の時価総額・企業数の分布

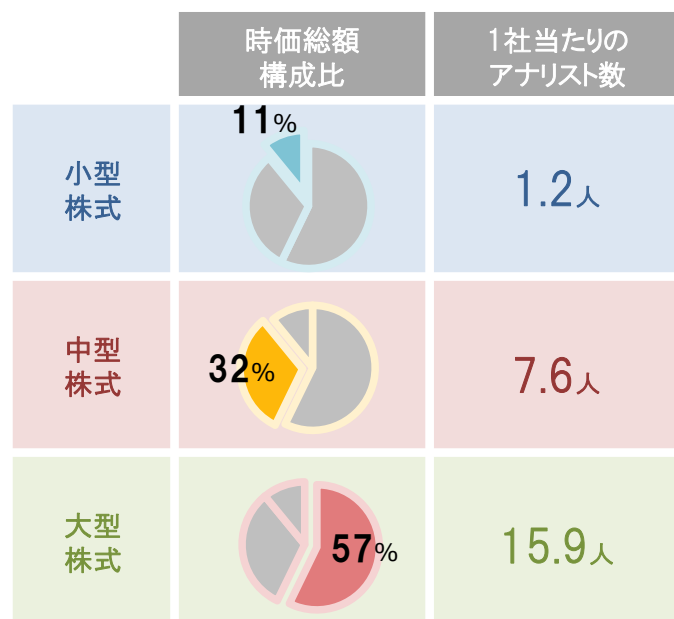
(2017年8月末現在)



(出所)東京証券取引所のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

## 企業規模別の担当アナリスト数

(2017年8月末現在)



「1社当たりのアナリスト数」は、「レーティングを付与したアナリスト数」をBloombergが集計したものです。

(出所)東京証券取引所、Bloombergのデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

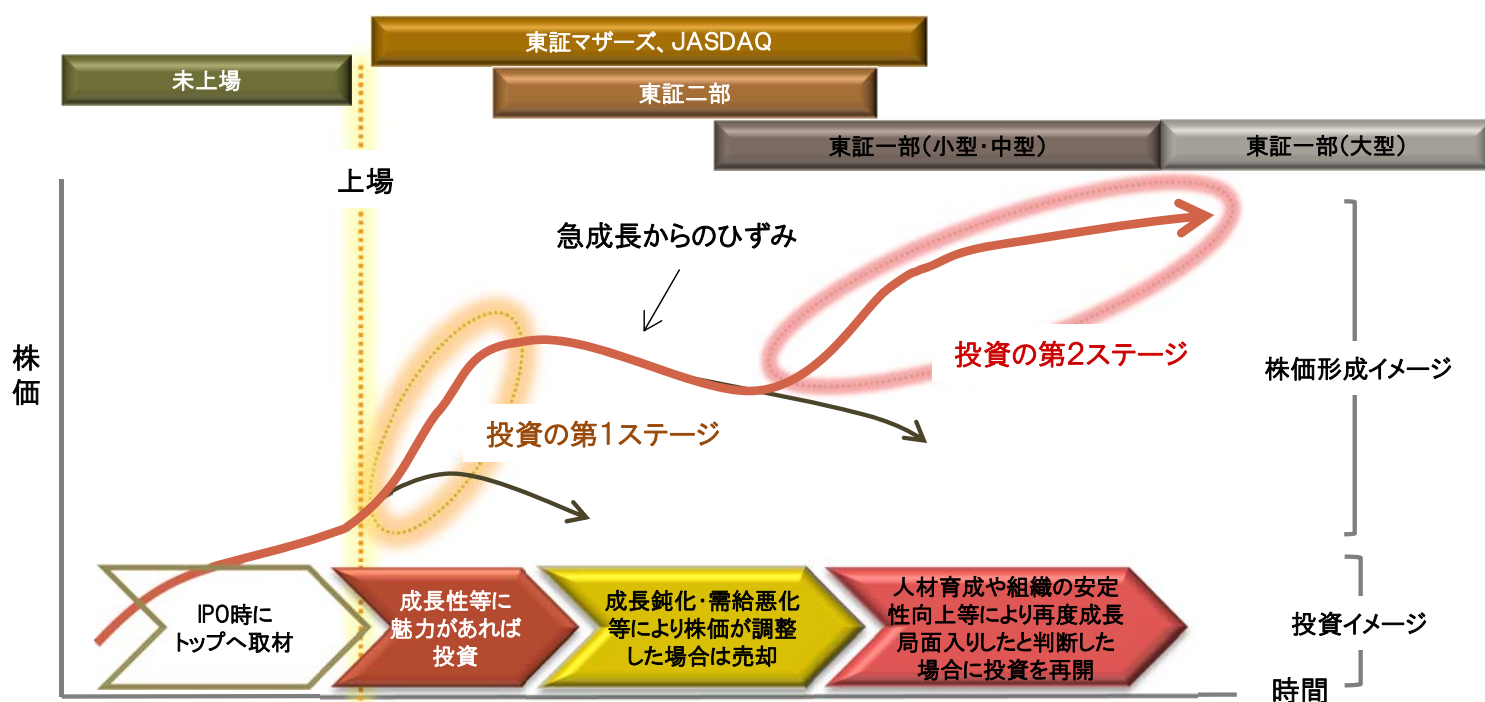
## 当ファンドのポイント

- 1 高い成長ポテンシャルを有する中小型株に加え、JASDAQ上場銘柄やマザーズ上場銘柄等、若く成長性に富んだ新興成長株を主要投資対象とします。
- 2 21世紀の日本を代表する経営者を発掘し、その成長性に富んだ企業の株式に投資します。
- 3 ファンドマネージャー自ら会社訪問およびアナリスト・ミーティング等に出席し、経営者から直接入手した情報を主要情報源とし、当社アナリスト・チームの調査力や外部調査機関の調査情報等も参考にし、調査と運用を一体化したボトムアップ・アプローチ\*によるアクティブ運用を行います。  
\*【ボトムアップ・アプローチ】  
投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。
- 4 財務分析による緻密な定量分析、経営者インタビュー等による定性分析を通じ、事業分野、経営戦略、経営資源、競争力、成長性、バリュエーション等の複数の銘柄選別基準により企業の投資価値を多面的に判断し、ポートフォリオに組入れる銘柄を選定します。

※資金動向や市況動向、残存信託期間等の事情によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## 新興成長株の株価形成と当ファンドにおける投資のイメージ

当ファンドでは、ほぼすべてのIPO(新規株式公開)においてトップ(創業者・社長等)への取材を実施し、成長性や株価妥当水準等を吟味したうえで投資判断を行います。また、IPO後に外部環境や先行投資負担等によって成長が鈍化し売却した銘柄についてもフォローを行い、人材育成や組織の安定性向上等により再度成長局面入りしたと判断した場合に銘柄によっては投資を再開することで、信託財産の成長を目指します。



※上記はイメージであり必ずしも全ての企業の成長ステージに当てはまるわけではありません。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

当ファンドの組入上位5銘柄のご紹介(2017年9月29日現在)

(期間:2012年9月28日～2017年9月29日)

## 組入1位:船井総研ホールディングス(9757)



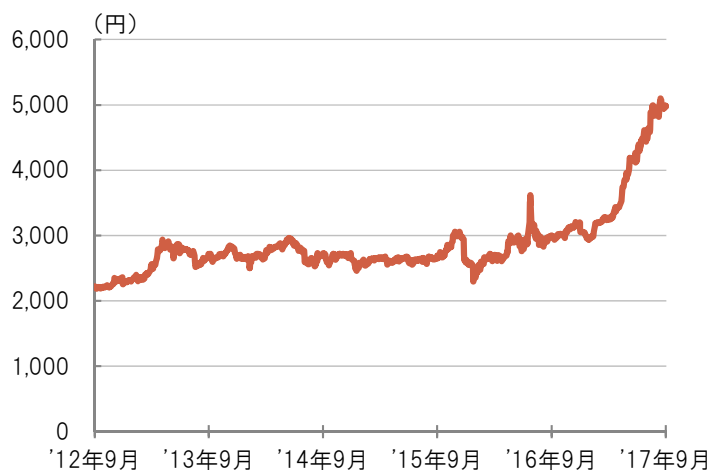
## 【企業概要】

中小・中堅企業向け経営コンサルティング業界大手。住宅・不動産、レジャー・アミューズメント、土業を始めとする多くの業界に対して、コンサルティングや研究会・セミナーを提供している。

## 【投資のポイント】

テーマ別ジャンルトップ戦略やIT・クラウドソリューションの開発などにより、今後も成長が見込まれる点を評価して投資。

## 組入2位:日本マクドナルドホールディングス(2702)



## 【企業概要】

ハンバーガー・レストラン・チェーンを中心とした外食業界大手。

## 【投資のポイント】

2014年の期限切れ鶏肉使用事件、2015年の異物混入騒動等により営業赤字転落も、店舗のリストラや商品強化・店舗改装等によるリカバリープランにより売上・利益とも急回復し2016年黒字化に。本格的な再成長ステージを評価し投資。

## 組入3位:エン・ジャパン(4849)



## 【企業概要】

インターネット求人広告大手。求人情報サイトや人材紹介事業を展開。

## 【投資のポイント】

少子化により企業の人材採用難が続き、効果を重視したサイトの選別が進む中、高い応募効果を示している同社への需要が見込まれ成長が著しい点を評価して投資。

(出所)Bloombergのデータより三菱UFJ国際投信作成

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

当ファンドの組入上位5銘柄のご紹介(2017年9月29日現在)

(期間:2012年9月28日～2017年9月29日)

## 組入4位:スミダコーポレーション(6817)



## 【企業概要】

電子部品の一つであるコイルの専門メーカー。車載、通信向けなどに強み。海外売上比率高い。

## 【投資のポイント】

自動車の電装化などを背景に車載分野の売上が拡大。車載関連はABS、HID(高輝度放電)ランプ、キーレスなど主力製品だけでなく、それ以外の製品群も拡大しており、車載関連の売上構成比上昇による業績拡大を評価し投資。

## 組入5位:D. A. コンソーシアムホールディングス(6534)



## 【企業概要】

主にインターネット広告ビジネスを手掛けるデジタル・アドバタイジング・コンソーシアムなどを子会社に抱える。

## 【投資のポイント】

インターネット広告市場の成長による業績拡大に加え、動画広告などのサービス拡大からの恩恵を評価し投資。

(出所)Bloombergのデータより三菱UFJ国際投信作成

## 【本資料で使用した指数について】

## ■TOPIX:東証株価指数(TOPIX)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

## ■大型株: TOPIX100

TOPIX100とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、時価総額、流動性の特に高い100銘柄で構成されています。

## ■中型株: TOPIX Mid400

TOPIX Mid400とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、TOPIXの構成銘柄のうち時価総額、流動性の特に高いTOPIX100について時価総額、流動性の高い400銘柄で構成されています。

## ■小型株: TOPIX Small

TOPIX Smallとは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を時価総額と流動性(売買代金)から区分した株価指数で、TOPIXの構成銘柄のうち時価総額、流動性の高いTOPIX500構成銘柄を除いた銘柄で構成されています。

各指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

上記は、特定の銘柄の価格変動等の示唆・保証、または推奨を目的とするものではありません。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

## ファンドの目的・特色

## 【目的】

信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

## 【特色】

## 1 わが国の金融商品取引所上場(これに準ずるものを含まず。)株式を主要投資対象とします。

- ◆投資対象は、中小型・JASDAQ・新市場の銘柄です。高い成長ポテンシャルを有する中小型株に加え、JASDAQ上場銘柄やマザーズ上場銘柄等、若く成長性に富んだ新興成長株を主要投資対象とします。
- ◆21世紀の日本を代表する経営者を発掘し、その成長性に富んだ企業の株式に投資します。

## 2 ファンドマネージャー自身のボトムアップ・アプローチ\*による銘柄選定を行います。

- ◆ファンドマネージャー自ら会社訪問およびアナリスト・ミーティング等に出席し、経営者から直接入手した情報を主要情報源とし、当社アナリスト・チームの調査力や外部調査機関の調査情報等も参考にして、調査と運用を一体化したボトムアップ・アプローチによるアクティブ運用を行います。

\*【ボトムアップ・アプローチ】

投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

- ◆明確な銘柄選別基準によって投資対象を選定します。

財務分析による緻密な定量分析、経営者インタビュー等による定性分析を通じ、事業分野、経営戦略、経営資源、競争力、成長性、バリュエーション等の複数の銘柄選別基準により企業の投資価値を多面的に判断し、ポートフォリオに組入れる銘柄を選定します。

※資金動向や市況動向、残存信託期間等の事情によっては、1、2のような運用ができない場合があります。

## 3 年1回決算を行い、収益の分配を行います。

- ◆毎年2月25日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

収益分配方針

・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。

・委託会社が基準価額水準・市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。)

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

## 投資リスク

## ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

## ○株価変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

## ○信用リスク

投資している有価証券等の発行会社の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、当ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。

## ○流動性リスク

有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。

上記のリスクは主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■その他の留意点

・投資信託(ファンド)の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

なお、分配金の有無や金額は確定したものではありません。

・分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間における当ファンドの収益率を示すものではありません。

・受益者の個別元本によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

・当ファンドのお取引に関しては、クーリングオフ(金融商品取引法第37条の6の規定)の適用はありません。

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**



## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

## 手続・手数料等

## ■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万口当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	当ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	無期限(2000年2月29日設定)
繰上償還	当ファンドの受益権の総口数が、当初設定時の10分の1または10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年2月25日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## ■ファンドの費用

## お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.24%(税抜 3.00%)**(販売会社が定めます)  
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 換金申込受付日の基準価額に**0.3%**をかけた額

## お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.836%(税抜 年率1.700%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われる当ファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についても当ファンドが負担します。  
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時に当ファンドから支払われます。  
※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、当ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

**ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。**

## ジャパニーズ・ドリーム・オープン

## 販売会社一覧

ファンド名称: ジャパニーズ・ドリーム・オープン

商号 (*は取次販売会社)	登録番号等	日本証券業協会	一般社団法人 日本 投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
アーク証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1号	○			
安藤証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第1号	○			
宇都宮証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第32号	○			
エース証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第6号	○			
SMBCFレンド証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第40号	○			○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
おきぎん証券株式会社	金融商品取引業者 沖縄総合事務局(金商)第1号	○			
木村証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第6号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第65号	○			○
荘内証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第1号	○			
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第99号	○			
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第20号	○			
東武証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第120号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第131号	○		○	
ばんせい証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第148号	○			
廣田証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第33号	○			
松阪証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第19号	○	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第20号	○			
三木証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第172号	○			
みずほ証券株式会社(換金のみのお取扱い)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○
三田証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第175号	○			
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第105号	○			○
明和証券株式会社(新規販売停止)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第185号	○			
山和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第190号	○			
豊証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第21号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
リーディング証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第78号	○			

## 本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

## ●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会: 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

## ●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

<ホームページアドレス> <http://www.am.mufg.jp/>

&lt;お客さま専用フリーダイヤル&gt; 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。